

# 町民スキー場利用方法

## 1、スキー場の使用方法について

- ・スピードの出し過ぎ等、危険な滑り方は事故の原因となるので絶対にしない。
- ・ソリ等の利用は原則禁止（利用の際は他の利用者に不便の無いように）。
- ・滑る前には必ずウォーミングアップをする。
- ・滑り始めるとき、斜面を横切るときは周りをきちんと確認し、他の人の滑りを妨げない。
- ・ゲレンデの中央には立ち止まらない。立ち止まるときはコースの端へ。
- ・コンディション（体調面・天候面）が万全でないときは、無理せず滑走を中止する。

## 2、リフト利用の仕方（リフトの乗り方）

(1)ストックを左手に持つ（幼児、小学生、初心者は両ストックの輪を左手首に通す）。

→降りる際、ワイヤー等に引っかかり転倒、引きずられることがある。

(2)原則、乗り場から乗り、降り場で降りる。

→①リフトの構造上、どこでも乗り降りができるが、途中で乗り降りしようとする人の前後に幼児や初心者がいる場合、降りた瞬間リフトが大きく揺れ、転倒することがある。また、本人も転倒することがある。

→②乗り場、降り場は（途中の降り場も）、平らにしてあるため、スムーズに乗り降りすることができ、揺れが少ない。

※しかし、手で捕まっている幼児、初心者は、スキー場の頂上までは、手が疲れ途中で手を離してしまうことがあるため、途中の降り場で降りるようにしましょう。

※小学生など遊び半分で一斉に離れたり、前の人を追いかけて急に離れたりし、その行動がエスカレートすることがあるので、そのようなことはしないようにしましょう。

(3)リフトが止まったら、係員の指示に従い、スキーをまっすぐにし、しっかりと力を入れて動くのを待つ。

→リフトは急に動き出す（すぐにトップスピードになる）

(4) リフトを利用中に途中で転んだら、すぐに手を離し、素早くゲレンデ側へ逃げる。

→後ろから来る人やハンガーに引きずられることがあります危険。

→途中から乗らずに一旦降りてから乗る。

(5) 山頂の降り場でリフトに引っかかったり、転ぶなどして上手く降りることができな

い場合は、青い線（ワイヤーロープ～乗越検出装置）にぶつかり切って下さい。

→リフトが緊急停止し、事故を防ぎます。

※青い線にぶつかってはいけないと、よけようとする人がいます。

（これまでに、乗越検出装置の上部をすり抜けたケースもあります。）

(6) リフトから降りたら、降り場に止まらずにゲレンデの方に進む。

→降り場が人でいっぱいになって、後ろから来る人が困ります。

(7) リフト利用中にわざとジグザグに乗らないこと。

→ワイヤーが動き、他の利用者が乗りにくく迷惑します。場合によっては、滑車からはずれ、復旧に時間がかかります。

(8) スキー授業の時には、次のことを職員に伝えて下さい。

→係の人が補助しやすくなり、スムーズにリフトに乗れます。

\*自分（一人）で乗れる →補助しません。

\*手で捕まっていく →ハンガーが目の前に来るようにし、後ろから支え補助します。

\*腰に当てていく →ハンガーが腰に当てられるようにし、後ろから支え補助します。

### 3、スキー場での約束ごと（安全に楽しく利用するためのルールとマナー）

スキー場では、皆さんが安全に楽しく利用できるようにするために色々な工夫をしています。次のことに気をつけ利用するようにご協力お願いします。

(1) 危険と思われる場所には、竹やポールなどで×をしてあります。その下をくぐったり、すぐそばを滑ったりしないで下さい。

(2) リフトのすぐそばは滑らないようにして下さい。

→リフトのそばを滑って転んだり、又はストックなどがリフト引っかかったり

すると大変危険です。また、リフトに乗っている人にもけがをさせるおそれがあります。

(3) 中間の降り場でジャンプなどをしないで下さい（ポールで×をしてあります）。

(4) コース外滑走は原則禁止となっています。

(5) リフトは、スキー、スノーボードだけ利用できることになっています。そりを持ってリフトを使って歩いて登ることはできません。

(6) スノーボードには必ず流れ止めを付けてください。